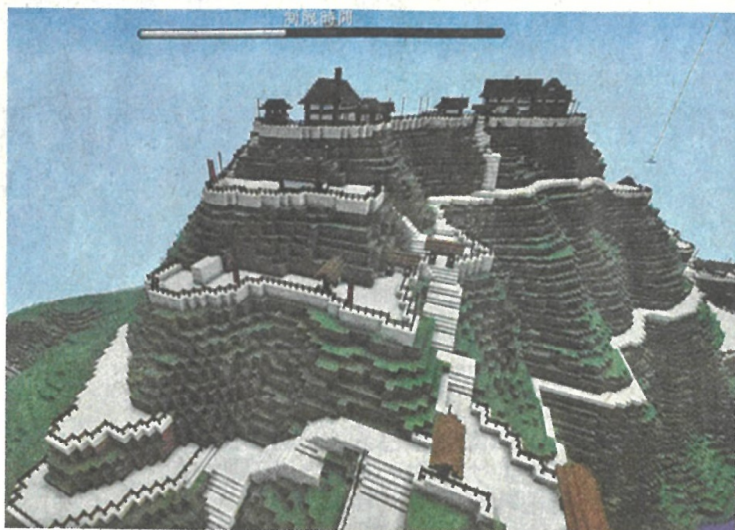


常葉大生「マイクラ」で再現



⑤切り立った崖や曲輪など高天神城が忠実に再現されたマイクラの画面 ⑥マイクラ高天神城での攻城戦を楽しむ常葉大造形学部の学生たち=いずれも掛川市役所で

掛川市に城跡が残る高天神城を、常葉大造形学部（静岡市葵区）の学生らが、仮想空間内にブロックで構造物を建築したり戦ったりできる世界的人気ゲーム「マインクラフト（マイクラ）」で再現した。「デジタルの日」の1日、掛川市役所で報道関係者に公開した。（築山栄太郎）



仮想空間に高天神城

戦国時代に徳川家康と武田勝頼が激しい攻防を繰り広げた高天神城は、NHK大河ドラマ「どうする家康」でも注目が集まるが、市によると市内の小中学生の大半は訪れたことがないという。長く文化財の調査研究を進める市観光交流課の戸塚和美調整官は昨年、「なんとか若年層に城の魅力を伝えたい」と、同学部の村井貴准教授に協力を依頼した。

現在の3年生4人と2年生2人が城跡を訪れた上で、今春から戸塚調整官の監修を受け、図面や模型、県の3次元点群データを活用して制作。3年の青島合花さん（20）は「エリアが広くて難しかったが、端と端の高低差や坂の勾配など、実際に登ってつくったからこそその気付きがたくさんあった」と振り返る。

完成したマイクラ高天神城は、曲輪や防御のための堀切などを立体的に再現。切り立った崖の急峻さを表すために土の色を使い分けるなど、ブロックの素材にもこだわった。1日のお披露目では、学生6人と久保田崇市長率いる職員チームが、城を攻める徳川軍と守る武田軍に分かれ、「ダイヤモンドの剣」や弓矢を武器に攻城戦を楽しんだ。市は城を自分で作り替えることが可能なモードを市のホームページでダウンロードできるようにするほか、対戦できるモードの公開も準備を進めている。29日に市内の大日本報徳社周辺で開かれるハロウィーン仮装イベント「掛川百鬼夜行」では、体験コーナーを設ける。

若年層にも魅力PR